



### 路 政 僧

絶對多數を擁せざる政友會、議會の

形勢は今よりトするに難くはない、が

併し夫れは純理、今の政治社會を純理

に立脚して觀るのは間違、政府が反對

黨乃至は自稱中立議員の誘拐に力むる

のは判りきつた常套手段、之で解散を

避けむとするのは政府―政友會の肚裡

其の手段の良否を評議するだけでも野

暮であるが、誘へば動くもの買収に應ずるもの指を屈すれば數十指に及ばむ節操の賣買には客觀的價値の標準はない、賣るものは高く賣れ、夫れに依つて現内閣が永續すれば或は國家の爲ならむか、一時を糊塗して小安を求めむとするもの、與黨たると在野黨たるとを問はず皆然り、併しながら夫れ等は來るべき普選に於て決算さるゝ、覺悟はよいか。

▽ △

民政黨瀆口總裁、其の關西大會に於て爲した民政黨の聲明、期待した程のことなく寧ろ其の無氣力なるに驚く、

政務と事務とを混同して地方長官を交

▽ △  
歳末近く迫つて恒例政治季節に入る  
第五十四回帝國議會招集され、日比谷  
原頭の猿芝居開幕せむとす、吾等の腦  
裡を叩くもの唯だ解散か否解散かの問  
題のみ。

送し官界に異常の衝動を興へたことを責め、府縣會議員選舉に際しては黨利黨略に急にして中央政務を滯滞せしめたのを難し、對支政策の失敗を詰り、確信なき政策を宣傳し散漫無方針に大豫算を編制したるを咎め、休銀整理の不始末を告げ、地租委議の延期は當然にして無期に延期すべしと叫ぶ。

地方長官の交迭等々と、其の責むる所は之を憲政會内閣の攻撃に轉用することを得、單的に言はゞ猿の尻笑ひと評すべし、濱口氏の言ふ大豫算の編制にしても片岡前藏相の編制した豫算は之を裏切つたではないか、人を責むるに先ち已れを顧るが可い。併し一つの中してゐるのは自信のない政策を宣傳して國民を惑はしめたこと、夫れ位の

ことである。

斯く觀すると總裁の演説は殆んど價値がない、蓋し總裁の演説が餘り政府の無能醜態を攻撃するに急であつて、民政黨の抱負と採るべき政策に言及しなかつた爲である、換言せば舊式政治家の履んだ揚足取的の型を脱しなかつた國民は夫れ等を聽くに餘りに飽いてゐる。

二大政黨の對立した今日、政黨の生くる途は其の抱負を國民に示し公衆の信を得るに在り、民政黨も夫れ相應の政策を聲明した筈、之を強調せざりしは民政黨の失敗か、吾人民政黨の爲に惜む。

貴族院を我が物顔に横行した研究会公侯爵連の脱會に依つて波紋を起したが、今又勅選議員を中心として事實的分裂を招致す、痛快不過之。

世は普選の時代に進展し民衆政治の行はるゝとき、民衆の多數と無關係な特權階級者を代表する貴族院が、衆議院と同等否な夫れ以上の政治的權能を保持することは著しく民衆政治の根本義に反する、其の間違を改むべく貴院改革命論の要求さるゝとき、子爵議員を中堅として我國政治を茶毒し來つた研究会が破綻したのは當然過ぎる程當然なこと、併し出所進退常なき議員連が如何なる團體を組織するかは政治の改革上からして餘り問題では無い、蓋し團體的行動を採つて研究会の舊態を踏む

とすれば、貴院の醜態を増加したのに過ぎずして、眞の貴革問題に觸れないからである。

政友會は曾て貴院の改革を聲明した筈、貴院一部の議員が覺醒し研究會内部の廓清が會内に擡頭した今のとき、從來の聲明を實現するには絶好の機會である、従前彼等權門に叩頭百拜したり無理妥協なぞした苦い經驗を想起せば、袖手して彼等の行動を對岸の火災視してゐるときでない、貴院全廢が大問題とすればセメテ有議員互選規則でも改正して、年來の聲明を實行するが可い、夫れが國家の爲なると同時に政友會の爲でもある。

地租委讓と産業立國を看板とした現内閣の昭和三年度豫算、十七億六千萬圓、消極政策を標榜した憲政會内閣の十七億五千九百萬圓に比すると、事業

地租委讓も五年度から實現することとした、濱口總裁のやうに無期延期を要求するのではないが、五年度を忘れてはならぬ。

の組替をやつたとは言ふものゝ餘り多いととは言へぬ、併しながら從來聲明した事業も餘り計畫されてゐないとすれば平凡な豫算の編制と可評。

休銀整理も政府の責務、併し銀行を救済するのが當面の責務ではない、小口預金を救済して財界の不況を回復すること、夫れが政府としての責務

産業立國に基いて計畫された産業道路助勢豫算までも、否認の運命に陥つた、道路改良費豫算を七百萬圓にする位なら、始めから産業道路に三百萬圓位を認むるのが、現内閣の政策を表明する手段として賢明であるに不拘、之を爲さざる如きは事務的豫算の編制、可もなく不可もなし批評するだけの價値も無し。

其の限界を超越して救済に手を觸るべきでない、況んや國民一般の負擔に於て之を救済する如き吾人斷じて之を不許、十五の整理の如き特權階級者自身で整理するが可い、夢、近よるべからず。

東に、西久保東京市長追出し問題、

西に、市村京都市長の辭職、東西相俟つて自治體の紊亂紛糾、兩者共に現在の市議に擔ぎ擧げられたもの、今、擔いた者から追出され辭職の已むべからざるに至る、前者は憲政會内閣時代に後者は現内閣時代に、何れも時の政府のお聲がかりで出來た市長。東西兩市長問題の経路の相似たる妙。

與へられた自由な自治權を持しながら、政府の援助に依るに非ずんば市の代表機關を得る能はず、こんなことから特別市制に於ける官選市長制度に楯衝く資格が無い、一方に理想を高調しながら他方には古い政治を脱し得ない矛盾した遣り方、其のスタートに誤がある、官吏や學者の古手が、日に新たなる市政を執行する能力を有するもの

と考へたのが、既に市會否な市會議員の不明、市長は古手の官吏や學者の安息所ではない、今頃になつて市政の執行能力がなかつたなどと言ふのは、市民を馬鹿にした話、少しは自分の責任を辨へるが可い。

由來市長を名譽ある虚器と心得てる思想が間違つてる、古い學者や官吏を引張り出し、俺のところの市長は大性格、助役は知事格でなければ治まらぬと言ふ、捉はれた因襲的な小さな誇は兩市とも此際放棄するが可い、見給へ、大臣格の市長で市政に貢獻した者幾人あるかを、大風呂敷を擴げて何事も爲す能はず遂に逃れ去り放逐されるのが常態では無いか、モ一少し目醒むるが可い。

市は生きてゐる、従つて市政を執行する市長は虚器たるを許さない、元氣澄冽たる新人を要す、容易に之を得難き所以は、其の人無きに非ず、唯だ市會議員の傀儡と爲つて議員の專恣横暴に處するを快とせざるに依る、良市長を得難き所以は良市會議員の存せざるに因る、市長市民選舉制の高調さるゝ所以。亦理ありと言ふべし。

政友會、東京市長追出しを煽動すと傳へらる、地方分權乃至地方自治權の確立を聲明して、知事公選論を唱へた卿等、今頃になつて又しても後藤市長を追出した憲政會の轍を踏まむとするか、早く中止して過を改めよ、内閣の交迭毎に自治體の代表機關を交迭せしむる惡例は貽したくない。